

みなさんは、幕末と聞いて何をイメージされるでしょうか？ペリー来航に象徴される外患や、それに連動する国内情勢の変動：尊皇攘夷・内憂外患と日本が開国から明治維新へおかつ激動の時代です。そんな中、この宇摩地域においても喧騒の時代を迎えていました。当時の宇摩地域に巻き起こった農兵や鉄砲隊、台場建設という印象的なトピックスは、当時の全国的現象ではありましたが、他の事案と比較しても独自の変遷を見せることに、当地域が持つ重要性や課題も浮き彫りにするものでした。

宇摩地域における農兵を巡って

■農兵とはなにか？

ここでいう農兵とは、幕末期において全国各地の農村で組織された農民による兵隊を指します。「兵農分離」、武士が軍事の専門を担い、その他の階層の非武装化を合理化するこの考えは、江戸時代を通じて国の根本をなすものでした。ところが、幕末期における時代の趨勢は、こうした理念や身分制度を形骸化させていくことにもなったのです。農兵は、異国船に対応するための海岸防備や、世直し一揆への対応（治安維持）などの機能を担っていくこととなりますが、これらは、従来の支配システムを為政者が自ら壊していく過程でもありました。一方で時代はそうしなければ乗り切れない状況であった

とも言えるでしょう。つまり「農兵」という言葉が定義されること自体が特異であることを物語っているのです。



農兵の取り立てを伝える文久3年9月付け文書

宇摩の庶民が鉄砲担いで異国船に対峙した！？ 幕末期宇摩郡における喧騒

農兵・台場・鉄砲隊



海防政策の中で

■宇摩地域における農兵の導入

江戸時代の後半、宇摩地域は51か村に分けられ、幕府領（松山藩預所）、今治藩領、西条藩領が入り乱れる複雑な支配体制が執られていました。このことは、当地域が持つ政治的・地理的特色とともに、別子銅山の運営などとも深く関わるものです。

こうした地域性を踏まえ、宇摩地域（一部新居郡含む）でも、川之江陣屋を中心とした幕府領（松山藩預所）において、この農兵が動員されたのです。「何時何ガ近クノ海岸ヘ渡来ノ異変之有ル程モ図リ難ク」「土着ノ士農兵等相用イ 永久ノ備ヘ相立テ候」とあるように、海岸線に面した宇摩地域の防御のために、農兵を整備しようとしたことが分かります。また、川之江城山付近への台場建設（今治藩も旧三島港側へ建設）も、一連の政策的判断と言えます。一方で、「偏地ノ儀間ニ合イ之無ク」ともあるように、宇摩地域が松山などの主要地から遠方にあるため、緊急時の対応がかなわないことも動員の事由に示されています。



銃隊任命書の一節

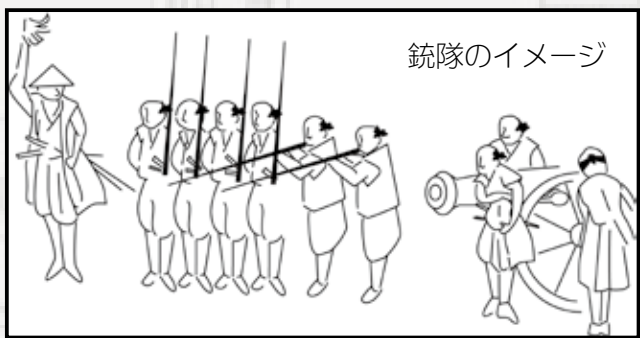
■動員の実態

文久3年（1863年）10月、実際に動員が開始され、住民2万2578人のうち1017人が川之江陣屋と天満村に集められました。鉄砲200挺を主要武器とした宇摩の農兵は、統一性のない集団ではありましたが、幕府領における農兵先進地であった伊豆江川代官所と比較しても、ほぼ同時期であり、計画から実行までの期間の短さや動員の割合も踏まえると、注目すべき実態を有していました。

外患から内憂へ

■砲銃射撃銃隊への発展

輪番制による業務従事など、恒常的な存在として運用され始めた宇摩の農兵は、海防の必要性は薄れたものの、移り変わる国内情勢とも連動することで、慶応2年（1866年）砲銃射撃銃隊として本格的に組織化が図られることとなります。司令士・大砲方・銃兵などを備えた、約30人規模の四小隊（後に三小隊）へと再編成されました。少数精鋭化された銃隊は、訓練も重ねながら領内の治安維持機能を担っていきました。別子銅山での騒動に際して、部隊内の銃兵が動員されるなどしながら、砲銃射撃銃隊は明治3年（1870年）まで存続することとなります。



銃隊のイメージ

躍動する庶民と地域力

■宇摩の農兵から見えてくるもの

宇摩の農兵の推移を読み解くと、当時の緊迫した世情とともに、人的にも経済的にも住民の自立運営に近かった政策の実態が分かるだけでなく、その背景には、船稼ぎや商家を中心とした領内の経済構造、窮民救済など村体維持への取り組みや共同体意識の醸成があったことが分かります。このことが実施と運用を可能にしたと言い換えることもできるでしょう。

類似の事案は周辺地域にも多く見られますが、大名の在所として領国的な権力集中を行い得た諸藩の周辺

と、特異性を有しながら大名配置の無い遠隔地であり、権力集中を行い得なかった宇摩地域との違いや課題も読み取ることが出来ます。しかし、実際に多くを負担し、慣れない銃を担いで任務に従事したのは宇摩の庶民たちでした。そこに幕末期宇摩郡における一連の喧騒を通じた、躍動する庶民と宇摩の地域力の一端を感じることが出来るのです。

冊子【宇摩を行き交う人と歴史「幕末期宇摩郡における農兵政策とその周辺」川之江村役用記による一考察】

を刊行しました！



文化振興課、土居文化会館（ユー・ホール）、暁雨館、かわのえ高原ふるさと館、土居・三島・川之江の各図書館で販売中です。
A4版全138ページで1冊1,200円。なお、各図書館で貸し出しもしています。